

## (6) 高齢者の自殺

平成27（2015）年における60歳以上の自殺者数は9,883人で、前年から減少している。年齢階層別にみると、60～69歳（3,973人）、70～79歳（3,451人）は前年に比べ減少した一方、80歳以上（2,459人）は増加している（図1-2-6-19）。

## (7) 東日本大震災における高齢者の被害状況

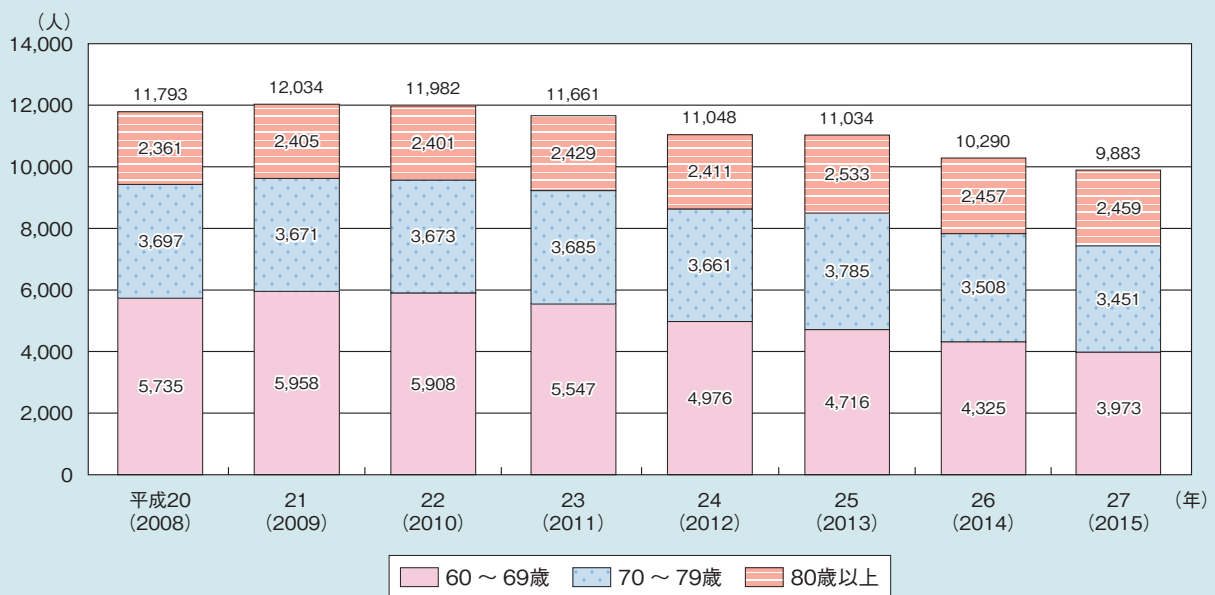
平成23（2011）年3月11日に発生した東日本大震災における高齢者の被害状況をみると、被害が大きかった岩手県、宮城県、福島県の3県で収容された死亡者は28（2016）年3月11

日までに15,824人にのぼり、検視等を終えて年齢が判明している15,749人のうち60歳以上の高齢者は10,404人と66.1%を占めている（図1-2-6-20）。

また、東日本大震災における震災関連死の死者<sup>1</sup>数は、平成27（2015）年9月30日時点で3,407人にのぼり、このうち66歳以上が3,018人と全体の88.6%を占めている。

（注1）「震災関連死の死者」とは、「東日本大震災による負傷の悪化等により亡くなられた方で、災害弔慰金の支給等に関する法律に基づき、当該災害弔慰金の支給対象となった方」と定義。（実際には支給されていない方も含む。）

図1-2-6-19 高齢者（60歳以上）の自殺者数の推移



資料：内閣府・警察庁「平成26年中における自殺の状況」に基づき内閣府が作成